

# 新たな高知県史【現代編】の編集について

R6.8 高知県史編さん現代部会

高知県史編さん事務局

## 第1 前回の『高知県史』の成果と課題

### (1) 前回の『高知県史』のなかでの現代史の位置づけ

前回の『高知県史』における現代史に関する記述は、「近代編」(1970年刊)の中で2章を設けて記述されている。1945年(昭和20年)の終戦から南海大地震、農地改革や大学設置及び市町村合併を中心として、1967年(昭和42年)の四国総合開発における国道Vルート(32号線・33号線)の開通までが記述されている。

【参考】『高知県史近代編』における現代史に関する構成

#### 第11章

##### 第9節 終戦と高知県

#### 第12章

##### 第1節 新憲法と高知県、第2節 南海大震災、第3節 復旧と経済再建、

##### 第4節 農地改革、第5節 高知大学と女子大学、第6節 高知空港、

##### 第7節 市町村合併、第8節 四国総合開発への道

### (2) 今回の『高知県史』「現代編」に向けての課題

前回の県史においては、次のような課題が残された。

- ① 対象とした時代が昭和40年代までであり、半世紀あまりが経過した現在、新たな時代を含めた記述が必要とされている。
- ② 主たる時代は「近代」(高知県の設置から終戦まで)を対象としたため、近代の補足的な位置づけにとどまっており、具体的内容や分量も少ない。
- ② 前回の近代編は政治・行政的な記述に比重が置かれたため、現代でも行政の変遷や地域開発などに主眼が置かれ、社会・経済・文化などの領域の記述が手薄であり、県民のくらしなどの記述は今後の課題として残されている。

## 第2 基本的な編集方針と目標

### 1 新たな『高知県史』「現代編」の編集方針

前項に見られる前回県史の成果と課題を踏まえたうえで、新たな『高知県史』では、本県の現代史について次のような基本的方針と目標を掲げて、編さんを進めていく。

#### (1) 「現代編」の発刊

終戦から間もなく80年が経過しようとする現在、いまを生きる県民の生活に直接関わるような様々な出来事が数多く繰り広げられた。それらの資料は膨大に存在するが、可能な限り必要な調査を進め、次の世代に残していく必要がある。

これら戦後の高知の歩みを振り返り、丁寧に調査・記録化するために、新たに「現代編」（資料編3巻、本編1巻）を発刊する。

#### (2) 「県民の暮らし」を視点においた編集

部会発足後の現地訪問によるフィールドワークを行い、聞き取りと資料調査を重ねるなかで、地域の人びとがかかわってきたくらしのさまざまな輪郭が見えてきており、市町村(地方自治体)、地域団体など、くらしを支える多様な担い手の役割がとても重要であると部会内で協議している。

「くらし」は、高知県史編さん基本方針に掲げられている方針でもあり、ここでは、高知県の現代を明らかにする総合的・包括的な視点として設定したうえで、編集を進める。

#### (3) 高知の現代史の特色を提示し探求する

前段に掲げる県民の「くらし」の視点から本県の現代史を整理し、特に特徴的な主題を捉えたうえで、丁寧に資料調査を実施し、資料編と本編(通史編)へ重点的に記載することとしたい。

##### ○現時点の議論テーマ

地域開発・過疎・移住(移民)・災害・自然環境・教育文化など

#### (4) 多角的な資料調査の実施

以上、県民の「くらし」を軸とし、特色的な主題を記述するため、資料調査と編集にあたり、次の視点を大切にす。

- ① 前回の県史では、県議会議事録や高知新聞社説などを資料として活用しているものの、その他の資料は充分に取り上げられていなかった。

今回の県史では、オーテピア高知図書館及び県立公文書館の資料を「現代編」全体の基礎的資料として位置づけ、十分に活用できるよう入念に調査を実施する。

またそのほか、県内各地における自治体公文書・議会資料や公文書以外の地域の資料の存在を確認しつつあり、こうした資料の発掘、調査を精力的に実施する。

② 県政関係の資料だけではなく、県内には自治体や企業、経済団体及び市民グループが作成してきた資料など、多種多様な資料が残されている。その多くの資料を調査するため、部会発足後、3ケ年の調査期間を設定しており、継続的及び網羅的な調査を実施し、本県の現代史の特徴が分かるような資料が掲載できるようにする。

③ 県内の歴史資料だけではなく、広く県外においても資料調査を行い、県域全体における県民のあゆみを明らかにする。

例えば、県民の移住先として割合の多い関西地域における県民の動きと、遠洋漁業による県外の漁業基地、また、いわゆる出稼ぎ労働による県民の動きなどを見るために、県外の県人会や本県にゆかりのある企業・団体などを精力的に調査することで、なぜ県外へ出て、故郷とどうつながってきたのかを記述することで、戦後以降の本県が抱えた過疎問題を中心に、県民の動態を明らかにする。

## 2 現代編編集の目標

以上のような編さん作業の実践とそれによる諸課題の解決を目指していくことが、新たな県史現代編の目標となる。その上で、以下の点に留意したいと考える。

- (1) 現代編が対象とする時代は、原則として戦後(1945年)からとし、本県現代社会の形成とその推移、その時代的、地域的特色について、県民の理解がより深まるように心がける。
- (2) 現代部会として、計画的な調査を実施し、政治・行政、産業・経済、くらし、教育・文化、自然・環境の各分野から幅広く資料を収集し、掲載事項や地域のバランスにも篤く配慮し、県民のくらしが分かるような資料編集を目指す。
- (3) 網羅的な調査により、県民や県内外の研究者に対して、収集した諸資料を基盤的データとして活用できるよう、行政側だけでなく立場の偏りのない資料の収集に努めていく。

- (4) 資料調査や編集のなかで、できるだけ多くの県民や団体の協力を求め、これまでの県内の自治体史編さんの成果に学び、他方で今後の歴史調査・研究を担える人材の育成を重視した編さんを行う。

### **第3 刊行計画と進捗管理**

- (1) 現代部会では、「資料編」第1巻を令和10(2028)年、第2巻を同13(2031)年、第3巻を同17(2035)年に刊行する計画である。またこれに続いて、「本編(通史編)」を令和21(2039)年に刊行する。
- (2) この長期にわたる刊行スケジュールは、当面は「資料編」3冊の刊行が目標となる。資料編の構成や資料の採録方針、編集の円滑な進め方などを協議しつつ、刊行計画が進むように努める。
- (3) スケジュールは、現代部会の中でたえず確認しつつ、またその進捗状況を編さん編集委員会へ報告し、他方で編さん事務局による作業の個別管理などにより、遅れが生じないよう適切に管理していく。